

## ランブリング名古屋大学 ～豊田講堂～

先日、名古屋大学に行く用事がありましたので、豊田講堂を見学してきました。

豊田講堂は、槇文彦氏の日本での最初の設計で、1960年に竣工し、日本建築学会作品賞、名古屋市都市景観重要建築物、登録有形文化財と名古屋大学を代表する建築物です。



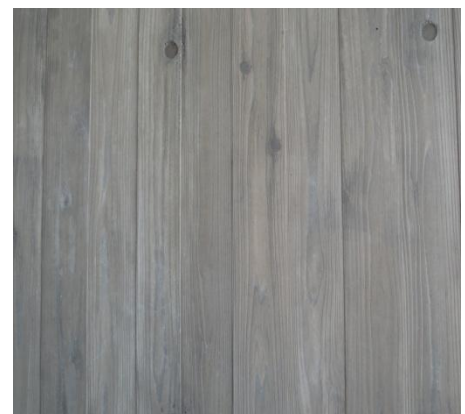
建物外観

トヨタ自動車から寄贈されたものですが、豊田佐吉にちなんでいるため、読み方は豊田（とよだ）が正しいそうです。

建築から50年近く経ち、2007年にトヨタ自動車とグループ企業の寄付によって改修工事がおこなわれました。改修工事も槇氏自らが設計をしています。

「モダニズム建築の保存と再生」をテーマにコンクリート打放の意匠の保存再生などがおこなわれました。

「外観デザインの印象を損ねないでコンクリート化粧打放し躯体を復元することが課題だったため、ピロティ独立柱のプロポーションを守りながら再生する工法が開発されました。この原型保存の工法は、杉板本実型枠にメッシュ筋を配して高流動化コンクリートを打設する薄肉打ち増し工法で、具体的にはコンクリート表面を30ミリ削り、その上に新しくコンクリートを55ミリ打ち増しています。またこの打ち増し工法を採用しないコンクリート打放し部の補修では、開発された杉木目転写技術によって杉板本実型枠コンクリートの質感を復元しています。（第20回BELCA賞ベストリフォーム部門より）。」



コンクリート打放

これからも名古屋大学のシンボルとして、活躍してほしいものですね。（M. N）